

# 加耶古墳の甲冑の変化と韓日関係

Changes in Armor from Gaya Tombs and Korean-Japanese Relations

宋 桂 鉉

## はじめに

- ① 4世紀代の甲冑
- ② 5世紀代の甲冑
- ③ 帯金式短甲の製作地
- ④ 甲冑副葬様相の変化

むすび

## 【論文要旨】

鉄製甲冑は、古代国家形成期における重要な軍事力の象徴といえる。それは、甲冑が権力の重要な象徴物として利用されたからである。加耶では鉄製甲冑類が権力の重要な象徴物として墳墓に埋納された。鉄製甲冑副葬の様相を知ることは、集団内の階層構造を明かす糸口ともなる。また、甲冑副葬の様相の地域差に着目すれば、集団の発展過程を比較検討することも可能となる。

本稿では、まず、これら加耶地域における鉄製甲冑の状況を、4世紀と5世紀以降に分けて、鉄製甲冑の形態、甲冑の副葬状況という視点から概観した。各時期における鉄製甲冑の出現・変化の要因を、4世紀には社会状況及び武器体系と戦術の変化に、5世紀には騎馬文化との交流に求めた。そして、5世紀以後に出現する帶金式短甲については、韓半島での出土状況や独自の要素に触れ、日本での出現と消滅に着目しつつ、その製作地について推察をおこなった。そして、釜山福泉洞古墳群や金海大成洞古墳群など地域ごとに、鉄製甲冑の副葬形態、甲冑副葬墳の位置づけ、その時間的経過などに着目して、甲冑副葬行為と古墳との関係を考察した。このように、鉄製甲冑の副葬様相から、集団の構造、その変容や変質など発展過程を素描した。